

神戸市

神戸市精神障害者地域移行・地域定着推進事業 ～ 進もう！『チーム神戸』～

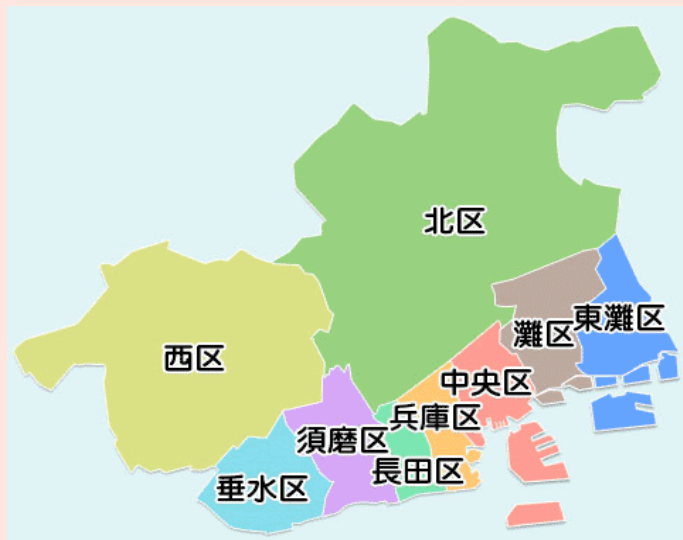
神戸市では・・・

『実行』の年として、今までの取り組みを見直し、『チーム神戸』で地域移行・地域定着の推進を目指す。

地域の状況等、再アセスメントを行い、神戸市が一体となって地域包括ケアシステムの構築ができるよう、効果的かつ具体的な取り組みを議論し、『実行』する。

1 県又は政令市の基礎情報

神戸市



取組内容 平成30年度まで

【ピアサポーター育成の取り組み】

- ・ピアサポーター養成研修・支援事業所研修
- ・ピアサポーターフォローアップ研修
- ・ピアサポーター活動報告会

【精神障害者の地域移行・地域定着の取り組み】

- ・精神障害者地域移行・地域定着推進事業
- ・ピアサポーター活用事業、地域移行・地域定着推進検討会等
- ・地域支援機能強化事業：障害者地域生活支援センターに地域支援機能強化専門員を配置し、地域移行に関係するネットワーク構築、地域住民に対する普及・啓発等をおこなう。
- ・神戸市グループホーム整備支援事業
- ・長期入院患者退院支援事業：生活保護法における長期入院患者のうち入院治療の必要性が低い者に対し退院を支援することにより、患者の適正な処遇を確保し、医療扶助の適正な給付を図る。

基本情報（都道府県等情報）

<基本情報入力シート>

自治体名（記入してください）

神戸市

※ ■「網掛け」部分及び ●「J」部分に半角数字で入力してください

障害保健福祉圏域数（H31年4月時点）	1	か所
市町村数（H31年4月時点）	政令市	市町村
人口（H31年4月時点）	1,522,635	人
精神科病院の数（H30年6月時点）	14（うち1病院は認知症専門）	病院
精神科病床数（H30年6月時点）	3,565	床
入院精神障害者数 （H30年6月時点）	合計	3,110 人
	3か月未満（%：構成割合）	931 人 29.9 %
	3か月以上1年未満 （%：構成割合）	565 人 18.2 %
	1年以上（%：構成割合）	1,614 人 51.9 %
	うち65歳未満	678 人
	うち65歳以上	936 人
退院率（28年度 NDBCによる）	入院後3か月時点	71.0 %
	入院後6か月時点	86.0 %
	入院後1年時点	92.0 %
相談支援事業所数 （H30年4月時点）	基幹相談支援センター数	1 か所
	一般相談支援事業所数	29 か所
	特定相談支援事業所数	59 か所
保健所数（H31年4月時点）	1	か所
（自立支援）協議会の開催頻度（H30年度）	（自立支援）協議会の開催頻度	9区中、2区に精神専門部会を有する 回/年
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	有、無
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（H31年3月時点）	都道府県	有、無 1 か所
	障害保健福祉圏域	有、無 / か所/障害圏域数
	市町村	有、無 / か所/市町村数

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

入院生活

地域生活のはじまり ⇒ 安心でき、安定した地域生活



精神障害者地域移行・地域定着推進事業（地域移行・地域定着推進連携会議及び検討会）

個別支援体制・地域生活定着支援体制の構築

精神科病院

<退院支援>

- ・退院意欲喚起
- ・生活能力の向上（疾病教育、服薬管理、金銭管理等）
- ・地域援助事業者との連携、地域事業所での体験プログラムの活用 など
- ・退院後生活環境相談員（法）
- ・入院当初からの医療保護入院者への退院支援
- ・医療保護入院者退院支援委員会の開催
- ・退院支援相談員（診療報酬）
- ・精神療養病棟での退院支援

<医療機関での地域定着支援>

- ・定期通院支援（往診や訪問看護の導入・地域支援者との連携）

☆ピアサポーター ピアサポーターの活用事業

<退院に向けた支援>

- ・精神科病院等での患者向け体験談発表活動
- ・地域移行利用希望者への個別支援
- ・精神科病院入院患者との個別面談

<地域定着支援>

- ・事業所職員と同行して訪問し個別支援
- <ピアサポーター養成・スキルアップ研修>

障害福祉サービス事業所

<退院支援>

- ・入院患者の体験プログラムの受け入れ
- <地域定着支援>
- ・サービス提供、医療機関との連携

相談支援事業所

☆ ピアサポーターの積極的活用

<退院に向けた支援>

- ・地域移行支援サービス提供

<地域定着支援>

- ・医療機関・関係機関との連携、地域定着支援サービス提供

訪問看護ステーション

- ・精神科訪問看護の提供

精神科クリニック

- ・各区との連携

委託法人（コーディネーター）

- ・地域移行・地域定着推進連携会議（検討会含む）の運営
- ・ピアサポーターの活用に係る事業（養成・育成・ピアサポーター支援者向け研修）
- ・精神科病院向け研修の実施
- ・障害福祉サービス事業所等へのスーパーバイズ
- ・介護保険事業所向け研修 ・地域住民向け研修

区（精神保健福祉相談員）

- ・障害福祉サービス利用申請受付
- ・本人、支援者からの相談・助言等

区（保護課退院支援員）

- ・長期入院患者退院支援
- ・ピアサポーターとの同行支援等

市（精神保健福祉センター・障害者支援課・障害福祉課）

- ・地域移行支援方策の検証（地域移行・地域定着連携会議 自立支援協議会 等）
- ・グループホームなどの施設整備 ・検証事業の評価（市民福祉調査委員会精神保健福祉専門分科会）
- ・神戸市登録ピアサポーターの登録

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

（1）神戸市精神障害者地域移行・地域定着推進事業

- ・地域移行・地域定着推進連携会議の開催 年2回
- ・精神障害者地域移行・地域定着推進検討会の開催（実務者レベルでの具体的な議論）
- ・地域移行・地域定着推進研修の開催
- ・精神科病院を対象とした地域移行推進研修（精神科病院職員（看護師、PSW）を主な対象）
- ・ピアサポーターの活用に係る事業（養成、育成、支援）
 - 1) ピアサポーター養成研修、ピアサポーター支援事業所研修
 - 2) 神戸市登録ピアサポーターによる精神障害者の地域移行に係る事業
 - ①地域生活報告会（体験談プログラム発表、病棟内での懇談会）の実施
入院患者、病院職員への意識付け
 - ②地域移行・地域定着支援希望者への個別支援
 - 3) ピアサポーター報告会（ピアサポーターの実践拡大を目指す）
- ・啓発ポスターの病棟内での掲示
- ・地域移行支援に取り組む相談支援事業所の育成（研修・個別支援に伴うスーパーバイズ）
- ・措置入院者等の退院後の医療等の継続支援
- ・地域住民向け等の研修会の開催（地域支援機能強化事業との共催）
- ・地域包括ケアシステムの構築状況の評価（実態把握、課題の整理）

（2）地域支援機能強化事業＜障害者支援課＞

（3）神戸市グループホーム整備支援事業＜障害者支援課＞

（4）長期入院患者退院支援事業＜保護課＞

3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

- 平成16年度から、神戸市や兵庫県が事業主体となった「精神障害者地域移行支援事業」を実施。
- 平成24年度から、障害者自立支援法（現：障害者総合支援法）の一部改正により、精神科病院の入院患者に対する個別支援が、「地域相談支援、地域移行」として個別給付化されたため、「精神障害者地域移行推進事業」としてピアサポーターの養成・活動支援を中心とした事業に見直しを図った。地域移行進連事業協議会・研修会の実施やピアサポーターの活用による、病院内での入院患者に向けた発表活動や個別支援活動を実施。同時にピアサポーター養成研修も行う。
- 平成28年度は、「長期入院精神障害者地域移行総合的推進体制検証事業」を受け、市内で地域移行・地域定着推進のリーダーシップを取れる2法人に業務委託して、関係機関を集めての連携会議、関係機関による検討会の実施により対策の検討をすすめた。
- 平成29年度も引き続き2法人に業務委託し、「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業」として、地域包括ケアシステムづくりを目指し、検討会を軸に事業を実施した。
- 平成30年度は、取組みを神戸市の関係機関に広く周知し、より一層推進が図れるよう、『連携の輪を広げる』というスローガンを打ち出し、検討会を活用しながら市内の関係機関との連携強化を目指した。

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

＜平成30年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (H30年度当初)	実績値 (H30年度末)	具体的な成果・効果
①地域移行・地域定着推進検討会での報告で定期的に進捗状況を確認し評価する。			年間5回の会議を開催した。精神障害者が地域で安心して暮らせるよう意見を交換し、各関係機関の顔の見える関係作りによる連携を進めた。
②集まりの場へ受託法人が行き、評価する。			地域の実情を把握するために、各区の自立支援協議会に参加することを検討したが、精神障害者を支える地域の実情は様々であり、市全体の動きには準備が必要な段階である。
③ピアサポーターの活用状況	個別支援可能なピアを5人に増やす	個別支援可能なピア 5人	地域生活報告会、病棟での懇話会などで、患者の再入院防止も視野に入れたピアサポーターの活動が進んでいる。 ピアサポーターの関わりで、退院の意欲喚起や、不安軽減につなげた。

5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

【特徴(強み)】

1. 地域の病院や事業所等、関係機関の顔の見える関係の中で、全市統一した情報共有や状況把握をし、連携・協力体制が取れてきている。検討会では地域の現状に合わせた取組みに繋げていける。
2. 神戸市登録ピアサポーターと相談事業所が連携した活動が増えてきている。事業所が、地域移行支援、地域定着支援に取り組みやすい。病院でのピアサポーターの活躍の場も増え、期待が高まっている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
		行政	個別支援の目標数値を明確化する。
精神障害者の地域移行・地域定着支援について協力可能な体制ができたが、個別支援の実数に結びつかない。	検討に終始しない意識を皆が持ち、実行に移していく。病院に対して、職員研修や地域生活報告会等を通じ、対象者の選定も含めた意識付けを行う。受け手である地域の相談支援事業所に地域移行支援の必要性を研修会等で伝える。	医療	病院内での対象者の選定に結びつける。職員の意識を高める研修を企画、実施する。
		福祉	地域移行・地域定着に関係する研修に積極的に参加する。
		その他関係機関・住民等	
		行政	ピアサポーター及び事業所を養成・育成・支援する。仕組みづくりを行う。
地域移行とその後の地域定着まで取り組める地域のピアサポーター・事業所が少ない。ピアサポーターの効果・有用性についての理解が浸透していない。	ピアサポーター及びピアサポーターを支える事業所を養成・育成・支援する。ピアサポーターと事業所が継続性と高い質を持って活動できるよう支援する。行政・医療・地域が一体となって、ピアサポーターを活用した地域移行に取り組む。啓発の機会を増やす。効果ある事例から繋げる。	医療	病院内スタッフ、患者への働きかけを行う。新たなピアサポーターを養成できるよう、関わりのある患者にアプローチする(DCプログラム等)。
		福祉	地域移行・定着の取り組みを検討、実施する。
		その他関係機関・住民等	
		行政	ピアサポーター及び事業所を養成・育成・支援する。仕組みづくりを行う。

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和元年度末)	見込んでいる成果・効果
①個別支援状況。	個別支援人数 11 支援に関わる相談支援事業所数 4	個別支援人数 20 支援に関わる相談支援事業所数 8	前例を増やすことでイメージが沸き、取り組みやすくなる。事業所を増やすことでケースを分散でき、多くの個別支援に対応可能となる。
②ピアサポーターの活用状況。	個別支援可能なピア5人	個別支援可能なピアを7人に増やす	ピアサポーターの活用事業を使うことで、より地域移行支援が進み、また、ピアサポーターの有用性への理解が進む。ピアサポーターを増やすことでより多くの患者に支援できるようになり、特定のピアサポーターに負担が集中することを防ぐ。

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容
R1年5月	第1回地域移行・地域定着推進検討会(年4回以上)	精神障害者や家族を取りまく医療・福祉・生活等の実態やニーズを把握する。個別支援実数増加の為、検討会メンバーと、病院に有効的な方法で入る。各区の自立支援協議会と連携をしながら、地域課題の整理を進める。
R1年7月	地域移行・地域定着推進連携会議(年2回)	年間ロードマップを作成し、地域包括ケアシステム構築に向けた明確な道筋を作る。年度末に活動報告会を行う。
R1年8月	地域移行・地域定着推進研修(年2回以上)	精神障害者の地域移行・地域定着のために関係機関それぞれが取り組めることを見出せる研修を行う。
R1年9月	相談支援事業所向け研修(年2回以上) ピアサポーター養成研修(年1回以上)	前年度に引き続き、実践報告等を通じて、地域移行・地域定着に関心を持ち、実際に支援に携わる事が出来るような研修を行う。 地域移行・地域定着のために動けるピアサポーターを養成する。継続性ある質の高いピアサポート活動を行える人を養成する。
R1年11月	地域住民向け研修 ピアサポーター支援事業所研修(年1回以上)	地域住民に向けて、精神障害者の地域移行・地域定着、地域での生活について啓発を目的とした研修会を実施する。 ピアサポーターを支える事業所を養成する。
H30年4月～ R2年3月	神戸市登録ピアサポーター報告会(月1回)	現在活動中のピアサポーターとそれを支える事業所が、ピアサポート活動の報告・交流・研鑽を行う。